

「業界をリードしていく存在」でありたい。  
変革をもたらし、



代表取締役社長  
藤尾浩太 Cota Fujio

1972年、大阪府生まれ。大阪学院大学を卒業後、ニュージーランドのオークランドへ留学。帰国後、建設資材関連の専門商社へ入社し、営業を担当。'98年、コンクリートコーリング株式会社へ入社。工事部門に配属され、コンクリート撤去・除去の現場に従事する。3年目からは営業部門を担当し、2012年、代表取締役社長に就任する。

注目の  
企業に  
学ぶ

## コンクリートコーリング株式会社

### 企業 DATA

本社 大阪府大阪市都島区  
毛馬町5丁目15-28  
設立 1978年(昭和53年)  
事業内容 ダイヤモンドワイヤーソー  
工事、ダイヤモンドウォール  
ソー工事、ダイヤモンドコ  
アボーリング工事、樹脂  
アンカー工事、コンクリート  
カッター工事、ウォーター  
ジェット工事等  
Webサイト [https://www.coring-os  
aka.co.jp](https://www.coring-os<br/>aka.co.jp)

# one hour

ワン・アワー 12月号

contents

- P1 注目の企業に学ぶ**  
**コンクリートコーリング株式会社**  
技術力・提案力・施工力の強みを活かし、  
業界のリーディングカンパニーを目指す。
- P5 経済ジャーナリスト川島睦保が切り込む 現場のリアル**  
特定非営利活動法人 健康経営研究会 理事長 岡田邦夫  
Interview  
健康経営®はトップダウンが解決  
自社の健康課題を探り出し  
ステップ・バイ・ステップで改善していこう
- P8 Essence 論語と算盤**  
Vol.41  
「能率増進のヒント」  
時間の使い方への意識が、  
能率増進と生産性向上の第一歩。
- P9 健康経営の実学**  
**株式会社レーザックス**  
社員全員が幸せを感じる会社にする。  
その覚悟は、絶対に揺らがない。
- P11 カルテの余白**  
国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 教授 小湊千絵  
LiD(聞き取り困難)に苦しむ人を、  
どうすれば“生きやすく”できるのか…。
- P13 経営のヒント**  
**事業継続力強化計画編**  
事業継続力強化計画(ジギョケイ)で、  
もしもの時への備えは万全に!
- P14 cover story 匠の結晶**  
「racco」  
燕振興工業株式会社  
テーブルでもキッチンでも役立つ  
使い勝手を追求したカトラリー。



コンクリート構造物の撤去・除去に特化した事業を展開するコンクリートコーリング株式会社。  
 施工計画の立案から進行管理、施工までの全工程を内製化した一貫体制で行ない、環境配慮型の  
 独自工法をはじめとする多彩な技術力を駆使して、高難度の現場でも抜群の「課題解決力」を發揮。  
 「安全で誠実な施工」を徹底し、次なる「夢」の実現を目指す藤尾浩太社長にお話を伺いました。  
 聞き手：辻野朱美（大同生命保険株式会社 大阪支社）

コンクリートの切断撤去は、  
クリエティブな仕事なのです。

ダムや橋、トンネル、高速道路、鉄道、空港、河川、発電所、公共施設や商業施設…。私どもはコンクリート構造物の切断撤去到特化した事業を展開しています。具体的には、コンクリートを切断する、穿孔する（穴をあける）、粉砕する、除去する、撤去する仕事。対象物の多くは、コンクリートの寿命とされる40年から50年を過ぎ、劣化が判明している高度経済成長期にできた社会インフラや構造物です。

この仕事の現場を一般の方が目にする機会はありませんので、よく重機を使って豪快に解体する少し荒っぽいイメージをもたれたりするの切るといふ「発想」だったように感じています。

最上位にあるのは  
「安全で誠実な施工」です。

もう一つ、当社の強みといえるのは開発力。当社が開発した「環境配慮型工法」は、騒音や振動、粉塵をほぼなくすることができたため、営業中のデパートの真横でも解体工事ができます。その時点で環境に配慮していることになるのですが、現在、さらに発展させて、切削時の摩擦熱を冷ますための水を一切使用しない乾式工法を標準化したいと考えています。セメント分を含んだ廃水は、カビ取り洗剤くらいの強アルカリ性なので処理が大変なのです。

ですが、そうではありません。実際には、繊細で緻密なプランを組み立て、多彩な工法や技法を駆使した高度な技術力が求められる、クリエティブな仕事なのです。

そもそも私どもの使命は、ただ「壊すこと」ではなく、新しい価値や機能を「生み出すために壊すこと」です。例えば橋梁や高速道路の維持、更新工事であれば、安全性をより高めるため。駅の改修工事であれば、バリアフリーにするため、広くするため、地下道とビルを直結して不動産価値を高めるためなど、既存のものが「生まれ変わった姿」を想定した施工計画から仕事が始まります。

この「施工計画を立案できる施工会社」ということは、当社の強みの一つ。例えば当社の手掛けた案件が、日本企業として初めてダイヤモンドアワード（2019年）<sup>\*</sup>の最優秀賞に選出されたのですが、それなどは顕著な事例かもしれません。受賞対象となったのは「地下鉄の

この技術は、原子力発電所の原子炉格納容器に関する案件を相談された際に開発しました。厳密にサンプリングした結果、放射能汚染はなかったのですが、事案が持ち上がった時点では「内側の壁面は少なからず放射能汚染されている」という前提での施工計画が求められたのです。

水を使って切る方法では、廃水が強アルカリ性どころか、汚染水になってしまう可能性があります。一方で従来の乾式工法では、ダイヤモンドの工具が熱に弱く、激しく損耗するため高さ70メートルもの「分厚い壁」を切断することは非現実的です。そこで試行錯誤しながら研究を重ね、水を使って切る工法と遜色ないスピードの新工法を開発しました。そして技術的な目処が立った段階で、当社の保有する「実験場」に実



験場」に実物大の原子炉格納容器のダミーをつくり、関係者の方々の前で実験し、安心して採用していただくことができました。ただ、強みとなる発想力や開発力も大切ですが、私の中で最上位にあるのは「安全で誠実な施工」に徹するというこ



トンネルを拡幅するために、軌道内の既設のコンクリートの側壁を撤去してほしい」という案件でした。狭い地下空間とはいえ、切るだけなら従来の工法でも可能です。しかし、工期が限られ「地下鉄の営業時間中も作業できないか」と要望されたことで、難易度は数段上がりました。

まず何よりも、鉄道利用者や作業員、列車の運行の安全を確保しなければいけません。小さなコンクリート片の一つでも、軌道側に飛散すれば大変なことになりかねません。次に、切り出したブロックをどうやって地上へ引上げられるかという問題もあります。つまり細かく切断するほど飛散のリスクや時間のロスが増し、大

す。社員が現場で何か迷うことがあったら、お金よりも時間よりも安全を最優先に。公共性の高い我々の仕事で、何年か後にトラブルの原因となるような「その場のぎ」は絶対にしてはいけない。「お金がかつてもいいから安全なほうを選びなさい」「ギリギリのところを攻めるのは、安全でも誠実でもないよ」と、そこだけはハッキリとさせてきました。

現在、当社の社員の3割は20代。その多くは建設業を志していた人間ではなく、私どもの話を聞いて「漠然と抱いていた建設業のイメージが変わった」といって入社してくれた新卒者や異業種からの転職者です。建設業に対して業界未経験者が抱きがちなの、ステレオタイプなイメージではない我々の「本物の姿」を見てもらい、その「誤解」をいかに解くか。そこに注力したことが功を奏したのではないかと思います。ですが、それでも何かしらの突出した技術や専門知識を持っている人の採用というのは、やはり難しいですね。

例えばリクルート活動をするときに、業種別のインデックスで見つけた建設業を「先端技術産業」だと認識しないのではないのでしょうか。むしろ「何か新しいことをやりたい」「何かを生み出したい」という志向を持った学生は、最初から建設業の項目を見

大きく切断するほど撤去が難しくなります。私どもは対象物の構造や作業環境、機材設置、施工時間など、様々な条件や制約を整理し、検討に検討を重ねました。その結果、生み出した解決策を端的にいうと「斜めに切る」「スライドさせて持ち上げる装置をつくる」。そして「列車が走る狭い地下空間で、側壁を1個1個のブロックに切断し、撤去する」というものでした。

このように案件に応じて「その現場専用」の機械・工具、技術を開発することは、当社にとって珍しいことではありません。しかし随所に施した工夫のうち、同業者でもある各国の審査員に最も響いたのは、斜めに

私どもは今年4月、ISO30414<sup>\*</sup>に準拠した過去3年間の重要な指標をまとめた非財務情報「De Facto Book 2023」をまとめました。そこに当社のPurpose（存在意義）、Dream（夢）、Belief（信念）を定義したのですが、Dreamは「ロボットや機械化施工を大きな軸に革命的な工法を生み出す業界のパイオニアになる」です。私は、後からついていくのは好きではありません。壮言大語と笑われるかもしれませんが、この会社を「業界をリードしていく存在にしたい」ですし、次世代に「夢を与えられる存在にしたい」と本気で考えているのです。



藤尾社長とともに（写真左は大同生命 辻野朱美）。

\*1 IACD S（世界コンクリート切断穿孔業協会の国際委員会が3年に1度開催する技術コンテスト）、コンクリートの切断穿孔に関わる世界中の企業が技術力を競う。  
 \*2 人的資本に関する11領域49項目にわたる人事と組織の情報開示ガイドライン。